

講座開講にあたり

はじめに

岡田和夫*

先生方、本日はお忙しいところを第9回麻酔科領域における臨床薬理学講座にご出席いただきましてどうもありがとうございます。

本日のテーマは「血管の収縮」ということにさせていただきます。私ども麻酔科で積極的に血圧をコントロールする、血圧が下がったときにどうしたらいいか、また血管作動薬で血圧を調整する、血管を締めるときに、成書に書かれている使用方で α が強いとか β が強いということを使っていると思いますけれども、ここであらためて血管の収縮を考えてみるのも麻酔を専攻する者にとって意義があるのではないかと思います。

薬理学講座ですから、本日は3人の先生に参加していただきました。最初の辻本先生にはカテコールアミンの血管における受容体の問題の最近の知見をお話いただき、次に、そういう血管の

収縮に関して、カルシウム代謝が血管の中で非常に大切な役割をしていることを私どもは漠然とは知っていますが、その機序をこの辺で勉強し直すということで日高先生にはお願いした次第でございます。それから、脳血管は比較的カテコールアミン、血管作動薬に対して依存性がないであろうと私どもは考えていますけれども、それでは脳血管の血流調節に関してはどういうところに特徴があるのかについて斎藤先生にお話をいただこうと思います。無敵先生は麻酔科領域で私どもの仲間ですが、静脈系の働きが循環全体の中でどういう意義があるかについての長年ご研究を、最後に、お3人の先生方のつながりとしてお話しいただき、全体として静脈系は私どもの循環調節に貢献している、無視してはいけないとお話をいただけるのではないかと考えています。

*帝京大学医学部麻酔学教室